

第 34 回

平成29年5月30日(火)

# 「とやま賞」贈呈式

## 贈呈式・受賞者スピーチ

### 「とやま賞」とは？

富山県の置県百年を記念し、富山県の将来を担う有為な人材の育成に資する目的をもって昭和59年に創設されました。

受賞対象者は、富山県出身者または県内在住者で、学術研究、科学技術、文化、芸術及びスポーツの分野において顕著な業績をあげ、かつ将来の活躍が期待される個人または団体の活動を奨励するものです。



金岡選考委員長による講評



石井理事長より賞状・目録贈呈



第34回「とやま賞」贈呈式は、去る5月30日に、富山国際会議場メインホールにて執り行われました。

贈呈式では、受賞者5名に石井理事長から賞状及び奨励金目録が手渡されました。また、各受賞者に、受賞の喜びやこれまでの経緯についてスピーチしていただきました。



受賞者によるスピーチ

## 今回の受賞者

この度は、第34回「とやま賞」におきまして、私の生まれ育ったふるさとである富山で大変素晴らしい賞を頂きましたこと、この上なく光栄に思っております。私が大学院生時代より日夜研究を進めてきた「ペプチド化学を用いた細胞内薬物送達と機能制御の基盤技術開発」の業績に対する「とやま賞」受賞は、本当に嬉しく思います。共同研究者の皆様、ならびに、関係各位に心より感謝申し上げます。現在、国内のみならず、世界的にもペプチドを基盤とした創薬は大きく注目されており、将来の治療や疾患診断を助ける「候補薬物」となり得るアミノ酸が数個から数十個つながった機能性ペプチドが、日々開発されています。例えば、がん細胞を認識し抗がん作用を示すペプチド、傷の治癒に役立つペプチド等、様々な機能性ペプチドが見出されています。私が精力的に取り組んでいる研究課題の一つに、ペプチドを基盤にした薬物の細胞内導入技術の開発を進めています。代表的な研究として、“膜透過性ペプチド”を用いた薬物送達あげられます。アル

ペプチド化学を用いた細胞内薬物送達と機能制御の基盤技術開発



中瀬 生彦 氏

大阪府立大学研究推進機構21世紀科学研究センター  
ナノスケール拠点研究所 特別講師

学術研究部門

医薬分野「薬学」